11

鄙のまれびと
hina no marebito

『週刊文春』のコラムに「音楽だけを勉強してきたような学生に経済・金融を教えてわかったと言われたときが至福」と載ったのは平成10年夏。談話の主は日本銀行長崎支店長時代に現職の長崎県知事から後事を託されるも現職国会議員2人の参戦で3番手に甘んじた田邉敏憲氏。その後、富士通総研経済研究所主席研究員や埼玉大学大学院経済研究科客員教授、東京大学大学院非常勤講師（MOT担当）、京都大学大学院エネルギー科学研究科客員教授、尚美学園大学学長等を歴任。2度目の出馬は平成29年、郷里の同級生等から熱烈ラブコールがあり広島県の庄原市長選挙で現職に挑み1000票差で涙を呑んだ。

不屈の日本の新産業と仕事づくり

尚美学園大学前学長　田邉敏憲（たなべ としのり）氏（70）

現在の田邉氏は選挙結果に落ち込むどころか「日本の強みを活かした5つのイノベーションで新産業と仕事をつくる」と意気軒昂。5つのイノベーションとは大型ドローン、液体ガラス、社風ログファンド、マイナス電子、土壌微生物と多岐に亘る。「市長選出馬の是非はともかく、庄原市のご縁で大型ドローンと液体ガラスに繋がり、新産業を直感した」と拳を握る。総重量25キロ以下のドローンは主に撮影用だが、25キロ超の大型ドローンは目視外飛行、発電機とのハイブリッドエンジンとなり世界初。会社を起こし、来春の国際ドローン展に向け余念がない。先日は沖縄の竹富町等へ市場調査に赴くなど精力的だ。「離島間物流や災害時の夜間飛行について適当な島間距離で、しかも客船に乗せられない医療廃棄物運搬のニーズやドローン専門学校への期待がある」と語る。液体ガラスは㈱ニッコー塩田政利社長が開発者で田邉氏が支援する。

「日本の材木は水分が多く使いづらく強制乾燥すると寿命が短い。しかし来春開業予定の山手線新駅、高輪ゲートウエイ駅が木造駅舎になる。材木を液体ガラスに浸けることで落書きも簡単に消せ耐火で1000年もつ」と意義を強調。東京都も「多摩産材の液体ガラス含浸との組合せ」に助成費可とする。田邉氏は「液体ガラスで年間8000億円の木材の輸入が逆に輸出に転じる」と目論む。

田邉氏は京都大学法学部の出身だが、化学で受験するほど理数系にも強く、演繹思考だ。縦割り組織でない日銀マンとしてホリスティック（全体性）やプライス（価格）を身につけた。さらに三重野康氏（第26代総裁）、緒方四十郎氏（元理事）、前川春雄氏（第24代総裁）を師と仰ぎ日本の金融政策の遂行に汗してきた。退職後に緒方氏から送られた手紙とその中の言葉「徳は孤ならず」も田邉氏の不屈の闘志を支えているのかもしれない。

文・写真　山ノ堀正道